

0-3-2

認知症患者に対するアロマセラピーの知的機能改善効果

Effect of cognitive function by aromatherapy on patients with Alzheimer's disease.

○神保 太樹^{1),2)}, 浦上 克哉¹⁾

1) 鳥取大学医学部生体制御学講座環境保健学分野,

2) 鳥取大学医学部生態情報機能学講座神経生物学分野

Effects of cognitive function by aromatherapy on patients with Alzheimer's disease were studied. We investigated the following tests the Japanese version of the Gottfries, Brane, Steen (GBS-J), Functional Assessment Staging of Alzheimer's Disease (FAST), revised version of Hasegawa's Dementia Scale (HDS-R), Touch-panel type dementia assessment scale (TDAS) four times. The result of the routine laboratory tests showed no significant changes, suggesting that there was no side effect of aromatherapy. The result of Zarit's score scaling how heavy the burden is showed no significant changes, suggesting that effect of aromatherapy for caregivers had no effect on the improved scores of the patients. These results suggest that aromatherapy may be useful as a type of complementary alternative medicines for dementia and have a potential to improve cognitive function, especially for AD patients.

【目的】

本邦において、認知症は65歳以上の10人に1人以上が罹患する疾患であり、その頻度は増加傾向にある。しかし、ほとんどの認知症に対しては、効果的な治療方法が無い現状にある。こうした現状にあって、補完代替医療として行われている諸所の非薬物療法が重要であると考えられるが、今回は侵襲性が低く、導入が比較的容易であると考えられるアロマセラピーについて、その効果を検討したので報告する。

【方法】

被験者は老人保健施設に入居中の、DSM-IV及びNINCDS-ADRDAの診断基準に従って診断された認知症高齢者35例（アルツハイマー病(AD)患者20例、脳血管性認知症患者4例、混合型及びその他11例）とした。アロマセラピー期間中、9時～11時にローズマリー・レモンオイル、19時半～21時半にラベンダー・オレンジオイルをファン式ディフューザーで散布した。検討にはクロスオーバー法を採用し、GBSスケール日本語版(GBS-J)、タッチパネル式認知症評価尺度(TDAS)などについて調査を行った。また、副作用を検討するために、一般血液・生化学検査を行った。さらに、介護者の負担感の増減による影響を考慮するために、介護者負担感評価尺度であるZaritを一部修正し、介護者に対して行った。

【結果】

認知機能において、GBS-Jでの有意な改善が見られ、特に軽度から中等度までのAD群において抽象的思考点数の有意な改善が見られた他、TDASにおいて、認知機能全体の障害の程度を表す総点について有意な改善が見られた。また、TDAS総点について、AD群を対象とした検定で特に有意な改善が見られた。

【結論】

以上より、アロマセラピーが、認知症の中核症状である認知機能障害に対して改善効果を持ち、特にアルツハイマー病患者に対して効果的であると確認した。